

芸洲宮嶋

芝居にて

中村歌右衛門

三代目市川蝦十郎

乍憚口上

高ふはムリ升れど御免を蒙りまして是より口上を申上升誠にもちまして

御城下旦那様方を始め客様大暑の砌も御いとひなく御来駕被下御機嫌

うるはしき御尊顔を拝しかやうな悦ばしい儀はムリ升せぬ随ひまして私義幼少

の砌は中村福助丈後中村歌右衛門と改名仕罷下り法界坊狂言杯御意に

相叶ひ御取立に預りまして其御恩忘れやうで何卒今一度御目見へ仕り

度事年々心願の所江戸執行やまたは近年足病差起り大坂表にては一世二代

迄も相勤其後病気全快仕ましたる所御ヒイキ御連中様より出勤仕候様

段々御すゝめに随ひ此上は舞台にて狂言の仕死の積りとムリ升

れど私にも追々老年に及び升れば最早此度は当芝居の一世

一代に相勤升よふにムリ升乍恐私生涯の間御ヒイキの程角から

角迄つらりつと奉希上升附まして是にひかへ升は御存じ之

市川瀧十郎でムリ升師匠倅二代目蝦十郎死去後名前相続仕候

者もムリ升故未熟の者にムリ升れど三代目蝦十郎と改名

いたさせましてムリ升此上ながら御取立の程奉希上升

○乍恐是より口上申上升かやうに年々御目見へ仕候段誠に難有

仕合に奉存候私義もこれに居られ升梅の親方の世話にて

三代目蝦十郎と改名は仕り升れど御存之通り不調法成仏たとへに申

桃灯より蠟燭が太トいと申そふか蝦十郎とは余り／＼おこがましく候得ども

旦那様方の御取立を持ちまして雑唯蝦も本蝦に相成り升やうに御ひいきの程角から角迄

つらりつと奉希※※削れにより見えず。「申」か上まする